

島根県大田市・石見銀山大森地区におけるグリーンスローモビリティ実証運行の取組

木本英哲(国土交通省中国地方整備局松江国道事務所)、松村和典(大田市観光振興課)、遠藤寛之(株式会社バイタルリード)

- keywords: グリーンスローモビリティ、社会実験、観光交通 -

1. 背景・目的

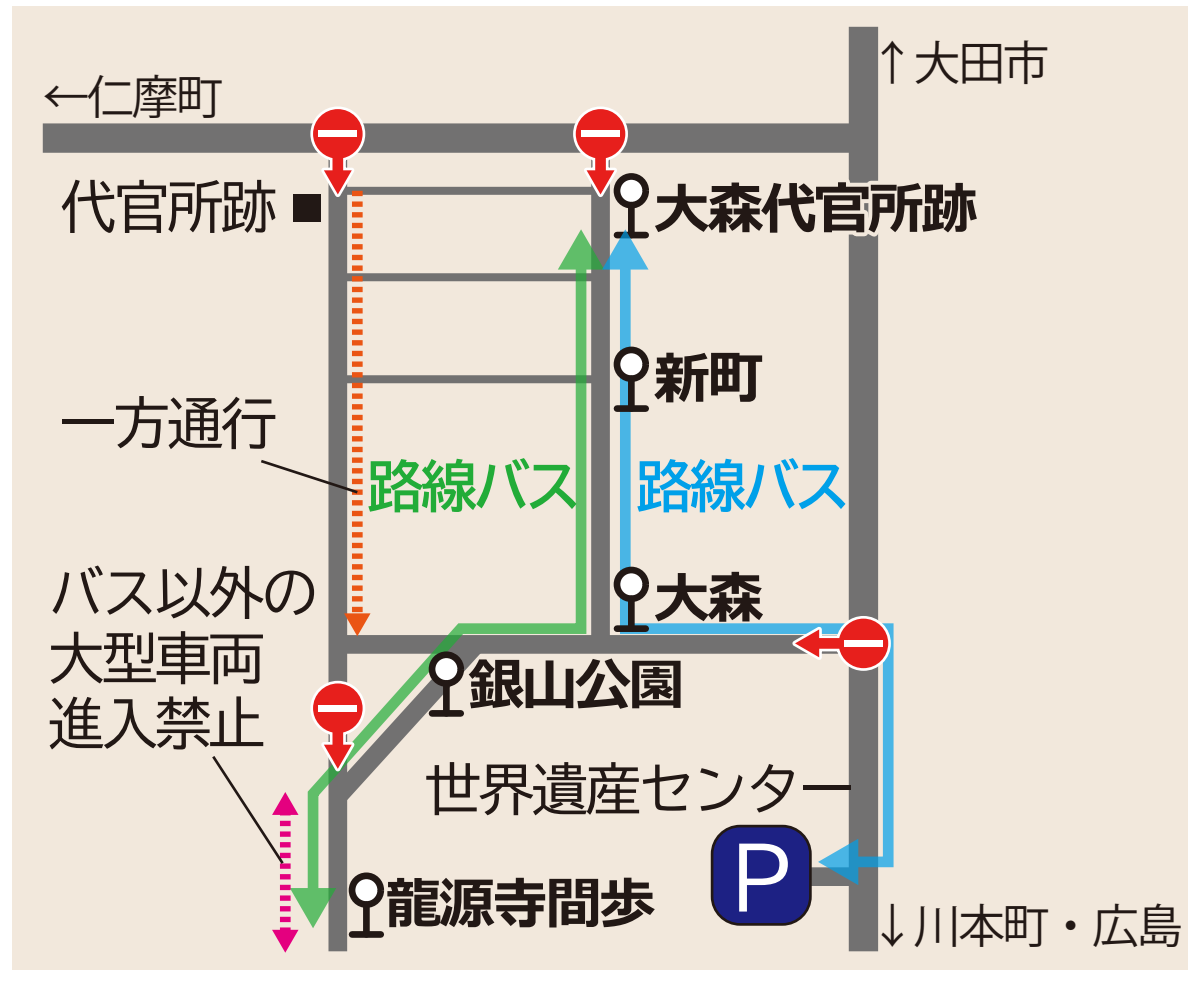
2007年 石見銀山大森地区(島根県大田市)が世界遺産登録

2006年に行った社会実験を踏まえ、「パークアンドライド」施策を行政と大森町住民で合意・実施



「パークアンドライド」社会実験の様子

登録前の社会実験を通じて合意した「パークアンドライド」施策



世界遺産登録後に多くの観光客が殺到し、路線バスの続行便が多数運行
→住民生活に悪影響(騒音、振動、排ガス等)

住民からバスの廃止要望

2007年12月19日付

朝日新聞

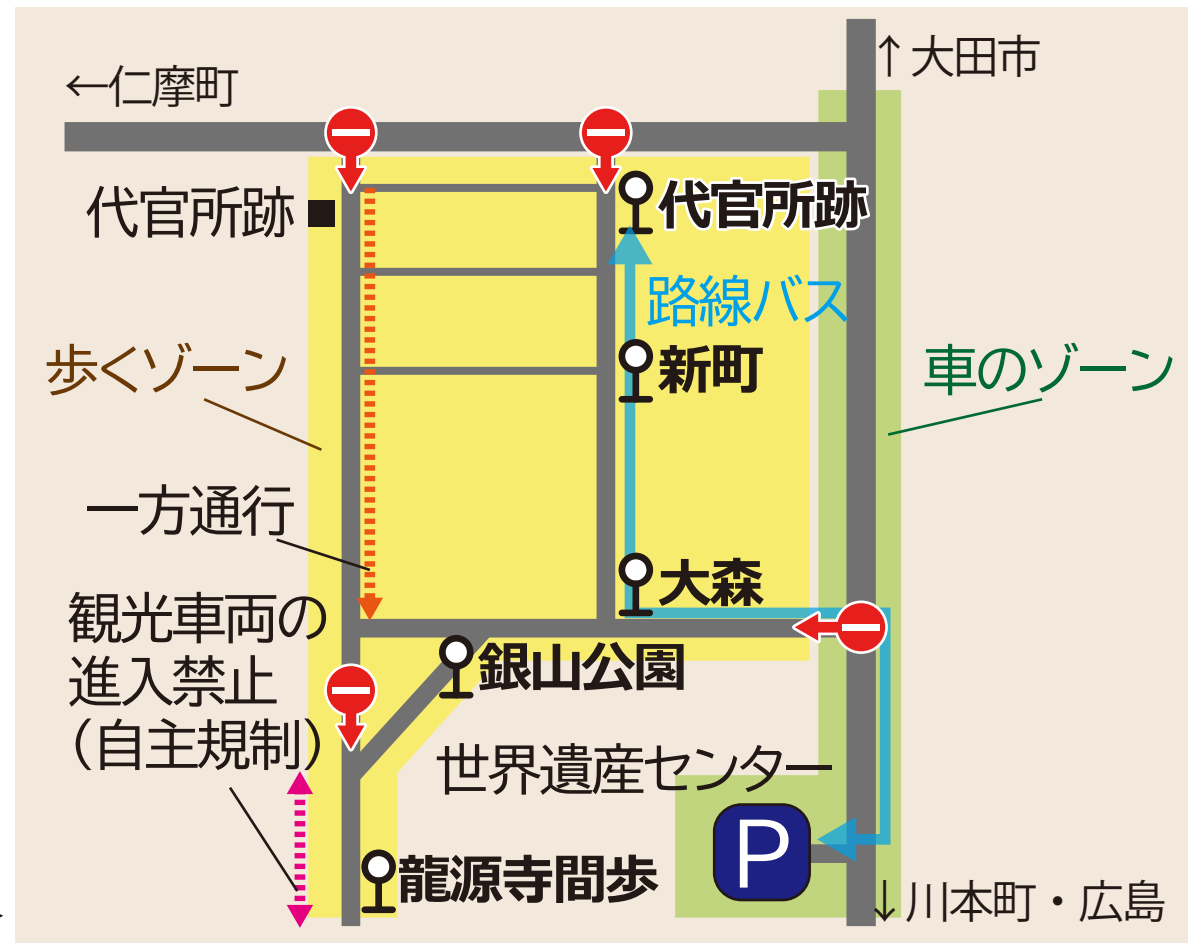
銀山地区バス廃止を 大田市に住民要望 「増えすぎ環境悪化」

中国新聞

銀山バス路線廃止陳情 大田の住民 市長・議長に排ガス・騒音問題化

住民発意の「パークアンドライド」施策(2008年～)

出典) 大田市資料、パンソイ・ナックボン; リビング・ヘリテージ地域における観光影響予防策に向けた関係主体協働の展開, 東京大学大学院博士論文, 2012



2008年 石見銀山大森地区内の路線バスが廃止

⇒利便性が減少し、来訪者が減少(ピーク時81万人→27万人)

⇒近年、移動制約者を中心に移動方法の改善検討

2017年 大田市において移動制約者向け交通手段の社会実験

2018年 国土交通省道路局「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験」

目的:社会実験における安全性に関する定量的・定性的な検証により、狭隘な道路空間がある観光地におけるGSMの導入可能性を検証

定性的な検証

来訪者と沿道住民との間で若干の差はあるものの、ゴルフカートはミニバンと比較して安全性が高く、走行を許容されやすいと評価される傾向
⇒狭幅員道路においては、車幅が狭いゴルフカートの方が導入を許容されやすい

定量的な検証

ゴルフカートは自動車と比較して錯綜挙動が発生しにくい
国内のトランジットモール事例よりも歩行者や車両の運行便数が2倍程度多くても安全性が担保できる
⇒中山間地域の観光地で、歩行者と自転車等が空間を共有する狭隘な道路空間において、ゴルフカート型のGSMが導入できる可能性が高い

出典) 遠藤、森山、松村、藤原、神田、鈴木:安全性に着目したグリーンスローモビリティの導入可能性の検討—島根県大田市・石見銀山大森地区を例として—, 第39回交通工学研究発表会, 2019

2019年～ 環境省事業による長期実証運行を開始

目的

石見銀山グリーンスローモビリティの長期実証運行の状況を報告

2. 現地の概況

人口 398人/高齢化率42.7%

(2019年4月1日現在)

平均幅員3~4m(最小2~3m程度)



3. 環境省の長期実証運行の概要と利用状況

●実験概要

○実験スキーム

環境省・国土交通省連携事業

「IoT技術等を活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証事業」

環境省

委託

取りまとめ団体
復建調査設計(株)

連携・事業実施

世界遺産石見銀山大森地区におけるGSMを中心とした地域内交通整備事業コンソーシアム
大田市、レンタサイクル河村、石見交通、バイタルリード

○運行概要(詳細はチラシ、webサイトginzanride.comで)

運行区間: 大森代官所跡→(町並み区間)→下河原吹屋跡→龍源寺間歩入口
高橋家住宅→石見銀山公園→大森代官所跡(往復約7km)

使用車両: ヤマハモーターパワープロダクツ製 AR-07型2台

運行便数: 1日12往復(12月~2月)/14往復(3月~11月) 約30分間隔

利用者数: 延べ13,331人(11月30日時点)

導入IoT: バスロケ予約管理、タブレット運行管理 ほか

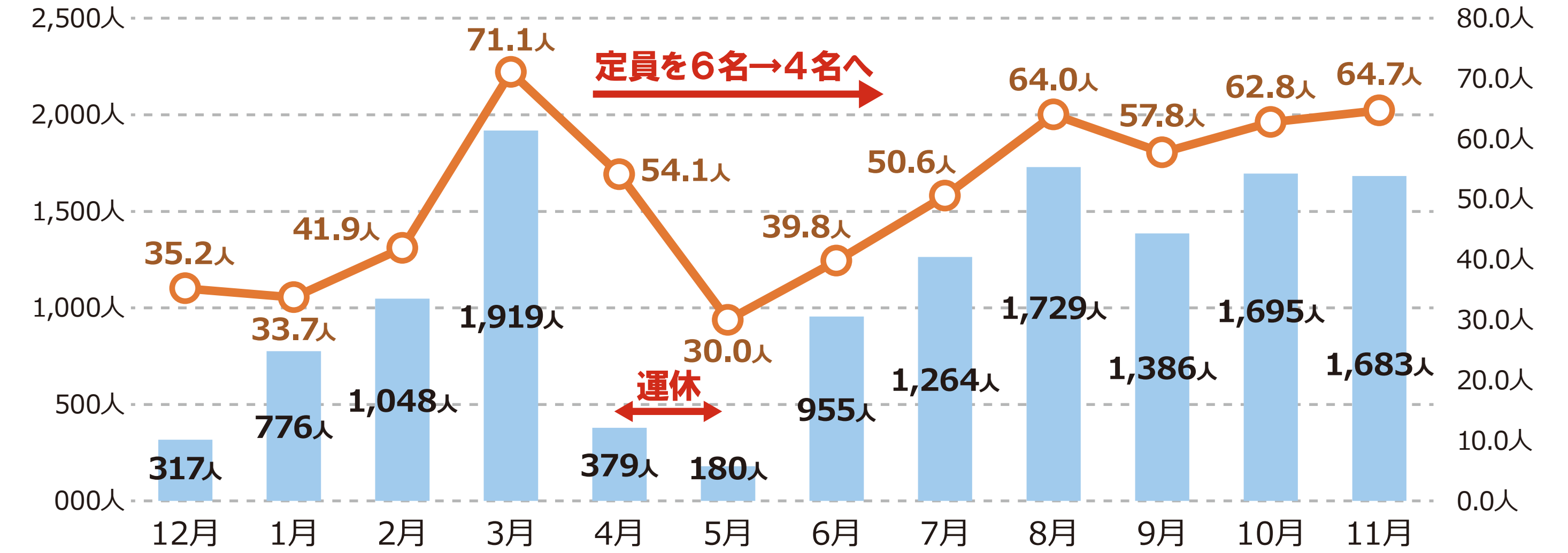


PR動画
(Instagram)

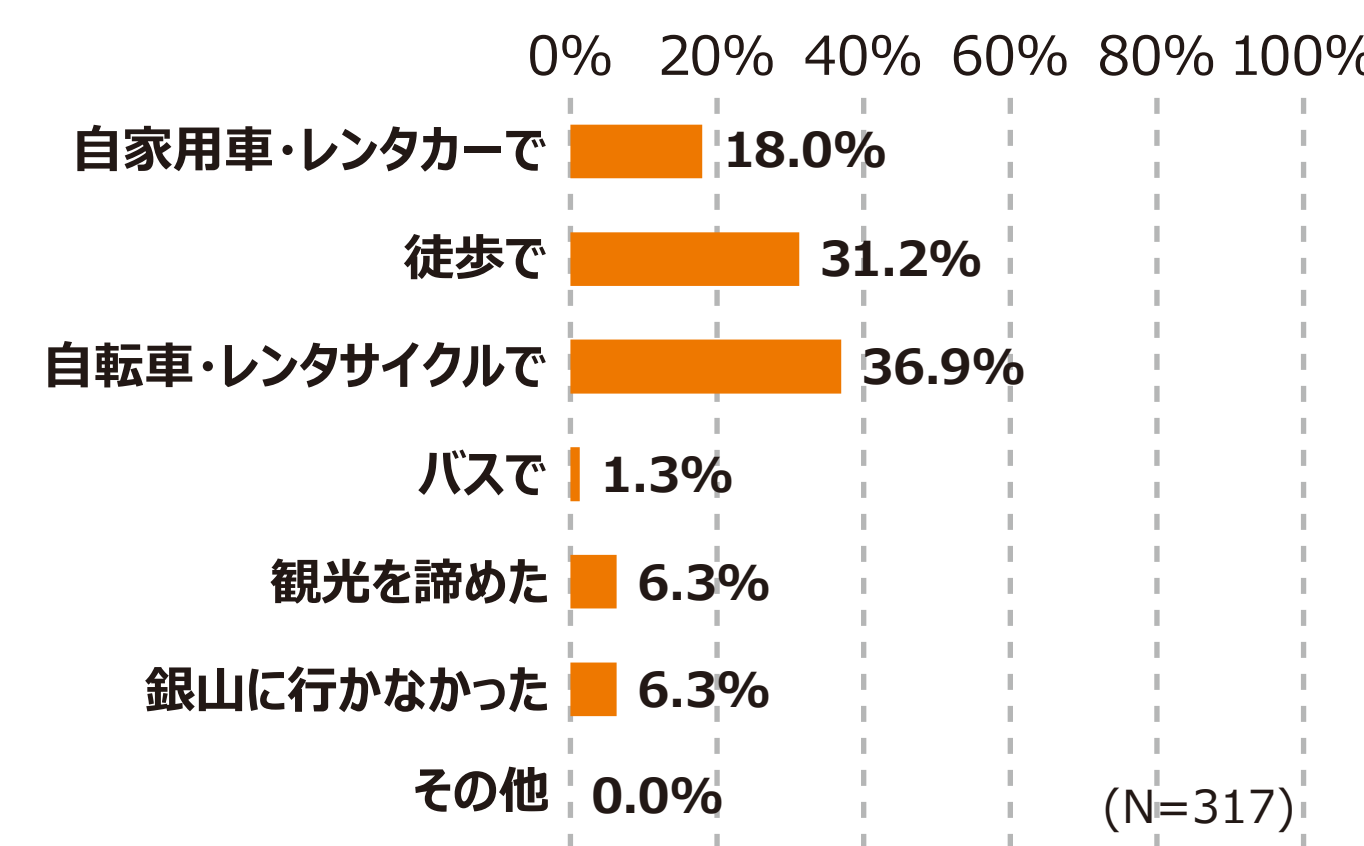
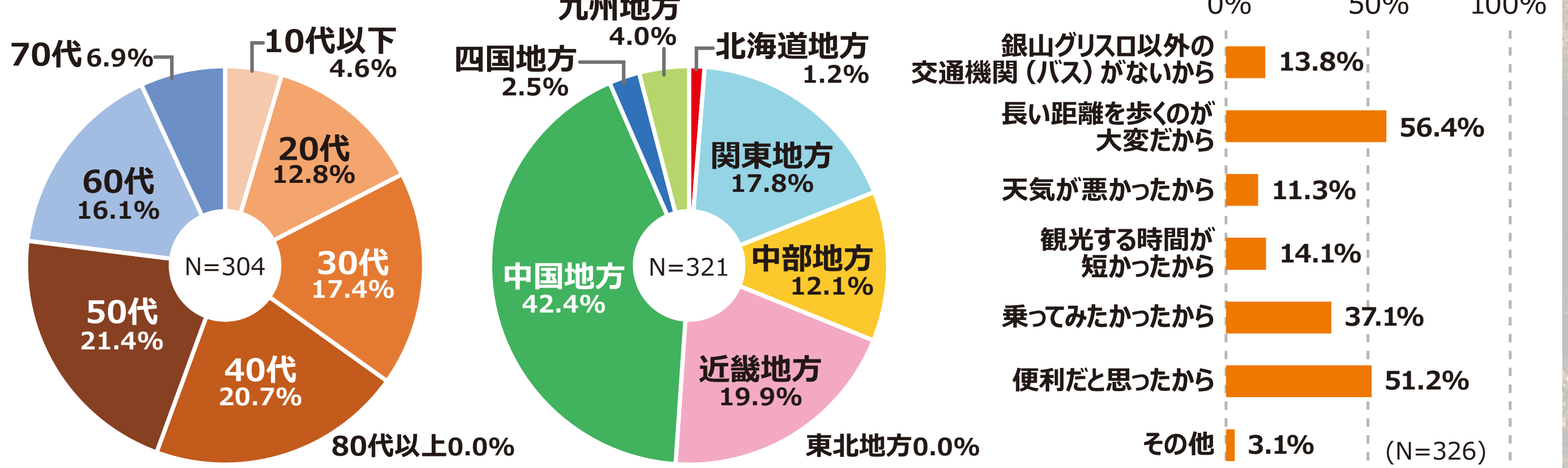


●利用状況

■月利用者数(左軸) ○1日あたり利用者数(右軸)



●アンケート評価



グリスロの存在により、観光行動の誘発・訪問箇所の増加が見込める
↓
観光を基軸とした地域の活性化に寄与

●その他取組

○愛称募集

・2020年9月~11月にかけて募集 現在審査中(来春発表予定)

○SNS運用

・Facebook(iwamiginzan.gsm)、Twitter(@Ginza_GSM)、Instagram(ginza.gsm)

※新型コロナ対策

・定員減(6名→4名) ・毎便運行終了時の車両の消毒
・運転士の検温 ・間仕切りシートの設置



4. 今後の展開

- 2021年度から有償実証運行を予定(市町村運営自家用有償運送)
- 有償運行での利用状況を踏まえ、持続可能な運行体制の構築に向け、関係者と意見交換予定
- 観光MaaSの観点から、施設等との連携チケットの導入に向け調整予定
- 社会実験を重ね、グリーンスローモビリティの実装を目指す
- 地域との協働により、石見銀山の来訪者のV字回復を目指す